

第 139 回中小企業景況調査

～中小企業経営者は、今の景気をどのように感じているのか～

主要 DI が持ち直すも、世代交代の波の中で翻弄される中小企業景況

2015 年 1-3 月期の中小企業景況調査では、全産業・製造業・非製造業の業況 DI に持ち直しの動きが示されたものの、一部に業種では前期の水準よりも悪化した。

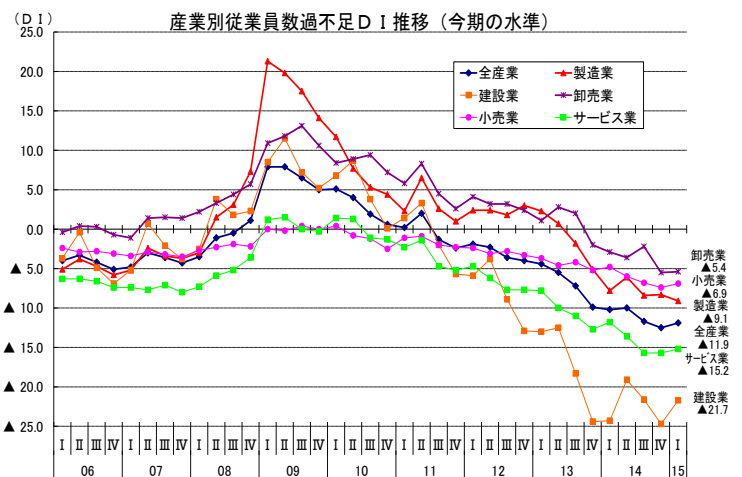
依然、高水準にあるものの、原材料・仕入単価 DI は 3 期連続で低下する中、売上額 DI や資金繰り DI の改善が見られ、中小企業の経営状態は落ち着きを見せ始めている。一方で、従業員不足が顕在化しており、需要への対応が困難になっていくことを懸念する中小企業経営者の姿が確認できた。

1. 収益の改善が広がる中、従業員不足が懸念される

今期の全産業の主要 DI（前期比季調値）を見ると、業況判断 DI▲17.8（前期 DI との差（以下、前期差）1.6 ポイント増）、売上 DI▲14.7（前期差 1.7 ポイント増）、資金繰り DI▲14.5（前期差 0.8 ポイント増）と、全てに持ち直しの動きが示された。

需要の回復が広がる中、資金繰りも改善し中小企業の経営状態が落ち着き始めていることを示唆する今期の調査結果だが、従業員数 DI（前年同期比）の減少という懸念材料も浮き彫りとなっている。

堅調な需要動向が示される中、人口構造の変化の波が中小企業の活動全般に押し寄せており、熟練従業員の引退に伴う新規採用の呼びかけに反応が薄い労働市場への対策が迫られている。



2. “職場の世代交代という経営課題” とその対応

今期の調査では、人材不足から将来の需要に対応できないことを危惧する経営者の声がコメントとして多く届いている。ただし、その現状を嘆くコメントだけではなく、人材難を“職場の世代交代という経営課題”として強く意識し、次のアクションを模索していることを示唆する経営者の存在も確認できた。これらの一部を紹介し、中小企業における人材確保について検討していきたい。

【コメント】

- ・ 近年、人材確保が特に難しくなり、加えて従業員の高齢化も進み、現在の生産レベルを維持出来るのか将来の不安がある。今後若手人材の確保に積極的に取り組みたい。(その他の水産食料品製造業 青 森)
- ・ 受注増で売上が伸びても、人材不足のために外注も増えてしまい、利益増につながらない。求人もなかなか集まらず、困難である。(一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く) 宮 城)
- ・ 仕事はあっても技術者がいない状況が続いている。今後も人員不足の状況が続いていくと思われるので、人材養成に力を入れていきたい。(一般電気工事業 埼 玉)
- ・ 親会社からの受注増に伴い採算は好転しているが、人材育成が最近のポイントになっている。熟練技術者が定年をむかえたが、それに続く若者が育っていないので、社員教育並びに新規採用に力を入れていこうと思う。(有線テレビジョン放送設備設置工事業 山 梨)
- ・ エネルギーコストの更なる高騰、その価格転嫁が思うように進まないことによる収益性の低下。今後のためには生産設備の更新、新分野への展開、人材の採用育成などの課題。(金属熱処理業 大 阪)
- ・ 求人票が増加し、求職者が売手市場になりつつあるように感じられる。人材確保の動きが大きくなるので、人材ビジネスとしてニーズに応えられるように体制を整えていきたい。(その他の情報処理・提供サービス業 佐 賀)
- ・ 原材料確保の為に農業部門等への業務拡大や、離職に伴う補充に対する人材の確保が困難になっています。人口減少に伴う市場縮小・就労者の減少にしっかり対応する事が、事業を発展継続させる為に肝要になってきます。(蒸留酒・混成酒製造業 鹿児島)

3. 見通し：育成による恩恵を振り返り、職場づくりに着手する

長い間、収益状況が安定せずいた中小企業において、雇用や採用はコスト負担の問題として認識されてきた。しかし、需要が回復し始めた今、いざ人材を確保しようとしても人口減少や少子高齢化の中では、なかなか思うようにいかず、全国各地で人材難という経営課題が存在感を増しているように思える。

今期寄せられたコメントにあるように、売り手市場となりつつある労働市場では、成長につながる職場環境にあるのかという点に多くの求職者の関心が集まっているのだろう。人が育つことが企業活動・経営活動をより活気あるものにするということは、これまでに採用し、長い時間を共有しながら熟練にまで至った従業員たちがその仕事ぶりを通して示してきたはずである。こうした経験を振り返りつつ、企業の継続・発展のために、いま一度、これからの人材が働きたい・働きやすいと思える職場づくりに着手することが経営者には求められているのだろう。

(文責：ナレッジアソシエイト 平田博紀)